



## 看護セミナー

VOL. 54

2023年  
11月1日発行



真剣に心臓マッサージを  
実践されています

### 『成人・小児のBLS<sup>(※1)</sup>、骨折時の 一時処置方法を知ろう』を実施

2023年8月3日(木)保育園に看護師3名が伺い、保育士25名の方へ看護セミナーを実施いたしました。昨年度はコロナの影響で実施できませんでしたが、今年度は保育園から看護セミナーの依頼があり実施することができました。3～4人のグループとなり、BLSグループと骨折時の処置方法グループに分かれ、30分ずつで実践しました。保育士からは温かい雰囲気の中で、わかりやすく説明してもらい自信につながって良かったと感想をいただきました。

(※1) 心肺停止または呼吸停止に対する救命処置のこと

### 今後の看護セミナーの予定

- ・ 2023年12月保育園  
「子どもの感染症について」
- ・ 2024年3月タクシー会社  
「睡眠時無呼吸について」

ご要望があれば、看護師による出張セミナーを実施いたします。気になることや、知りたいことがあればご連絡ください。



熱心に講義を聴かれています



お問い合わせ先：ばんたね病院 看護部長室（代表）052-321-8171

# 9月3日に戦時下状況厳しいなか、ウクライナから2名の留学生

ウクライナ西部ポーランドまで1時間ほどのリヴィウ救急病院から、ユーリー・フライズ先生アンドリュー・ディアキフ先生が三週間の予定で留学してくれました。物静かで、真摯で、思慮深いそんな印象を咄嗟に受けました。戦時下での国外留学には限りがあり今回も三週間の許可でした。戦場から列車で送られてくる負傷兵の手当の仕事含め、ほぼ昼夜休みのない低賃金労働が課せられているようです。

彼らは、脳外科医としての最前線の技量や最新の設備を学びたいという今回の留学目標にまっしぐらでした。激戦地からは離れているとはいえ爆撃も時折あり、親族も犠牲になっている話も聞いています。こちらではいくつかの脳外科施設でのオペ見学、ローカルな脳外科学会での発表やハンズオンへの参加、また学会の懇親会にも参加し、交友の輪を広げていました。京都の観光名所top 5にも、あと2名のインドからの留学生らと共に旅行しています。

発展途上にあつた祖国の突然の歩みの停止、この先10年はかかるであろう復興を背負いながらも、脳外科同僚や後輩ひいては患者様のために、今回の短かったものの凝縮された勉学の日々は彼らの役に立つことでありましょう。そして学問のみならず、つかの間の心のリフレッシュにも繋がったとあれば望外の喜びです。健康の前にある平和、この意味を彼らを明日送り出す今、色々な意味で全力出しきれたのか自問しています。祖国と世界平和に向け、彼らの留学が役に立って欲しいと願っています。

脳神経外科教授 加藤 庸子



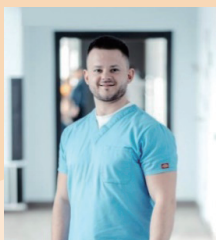
脳神経外科医局員と留学生



日本心血管脳卒中学会学術集会

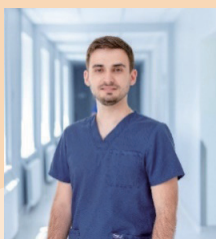


茶話会（医学生との交流）



ユーリー・フライズ  
先生

日本でのインターンシップの知らせは朗報でした。加藤庸子教授は世界的に有名な脳神経外科医であり、ばんだね病院でのフェローシップは素晴らしいです。ウクライナでの戦争のため、海外旅行の許可やビザの取得は困難でしたが、日本に着いて国と国民の威厳に感銘を受けました。加藤教授をはじめ、脳神経外科のチーム一同、温かく迎え入れていただきました。手術室では、最新の脳神経外科機器、動脈瘤クリッピングなど様々な手術での高度な外科医の技術を実感しました。この期間中、新しい教師、先輩、そして友人を得ました。日本人の素晴らしい人間性、親しみやすさ、おもてなし、ユーモアのセンスに気づきました。沢山の美しい日本の風景を訪れました。日本は何度でも帰りたい国です。加藤教授、そしてばんだね病院の全ての人に感謝します。最高の専門家から学ぶこの素晴らしい経験をウクライナの同僚と共有し、これが日本への最後の旅行ではないことを願っています。私とウクライナの人々から、幸運を祈ります。



アンドリュー・ディアキフ  
先生

私は発展途上国であるウクライナの脳神経外科医アンドリュー・ディアキフです。世界的有名な加藤庸子教授の下で専門家チームが働いている藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科でフェローシップの機会を得たことを非常に嬉しく思います。毎日、手術室と手術室以外の両方で非常に忙しいプログラムでした。短いインターンシップでは、実践的及び理論的なコース、国際会議に参加し、名古屋と東京の複数の病院を訪問することで、日本の医療、組織に精通する機会を得ました。日本の医師が共有してくれたこの知識と経験は、ウクライナの医学の発展に確実に使用し、同僚と共有します。

## 手からの脳血管内治療 ～よりストレスを感じない治療を目指して～

脳動脈瘤、頸動脈狭窄などの治療として脳血管内治療は、より低ストレス治療として、ここ20年ほどでめざましく発展しております。足の付け根（鼠径部）から太い動脈内にカテーテルを挿入し、大動脈―頸動脈―脳動脈へとカテーテルを進め、脳血管病変部へコイルを詰めたり、ステントを留置したりするのですが、開頭する必要がなく、体に優しい治療として広がってきました。

しかし、カテーテルを挿入した足の付け根を術後に圧迫して止血する必要があり、術後は翌朝までベッド上で足を曲げずに寝た状態で過ごさなければならず、患者様にストレスを与えざるをえませんでした。大きな血腫が発生し、緊急手術が必要となることもあり、術後管理において大きな悩みの一つでした。その解決策として、ここ数年で、より細く、より薄く、より折れないカテーテルの開発が進み、親指の付け根にあるより細い動脈を利用して、同様な脳血管内治療が可能となりました。手の付け根の動脈を利用するので、術直後から歩行可能、ベッド上で座って過ごす事ができ、特にもともと腰痛持ちの患者様にはとても喜んでいただいております。挿入箇所を患者様が常に見ることができるので、万が一出血した場合でもすぐに気づき、患者様自身の手で押さえられるので、大きな出血となることはなく、術後にトラブルが生じたことはございません。もちろん、脳血管の病変の治療も十分に達成できており、また安全性も確保できております。

より低ストレス治療を患者様に提供しようと、我々はこの治療法を優先しております。他医療機関で足からの脳血管内治療をすすめられた方は、一度ばんたね病院脳神経外科外来で、手からの治療のお話を聞いてみませんか。お待ちしております。



親指の付け根にある  
動脈から  
カテーテル挿入



術後に圧迫止血



翌朝解除



脳神経外科  
田村 貴光 准教授

【専門分野】  
脳神経血管内治療  
頭蓋底外科

【認定資格等】

日本脳神経外科学会専門医、  
日本脳神経血管内治療学会認定指導医、  
日本神経内視鏡学会技術認定医

## ばんたね病院で3例目となる脳死下臓器提供

日本で第989例目の脳死下臓器移植の患者様は50歳代で重症くも膜下出血ののち脳死になられました。その尊いご献体の提供をいただくことになりました。強い絆で結ばれた家族は奥様と3人の息子様、親密なご兄弟がいらっしゃる、家族の皆様にとって臓器提供は苦渋の決断だったと思われそうですが、お話を進めていく中で臓器提供に意味を見出されご快諾いただきました。ばんたね病院では3例目になりました。しかし、毎回違う状況の中での症例であり、多くを学ばせていただきました。日本の脳死下の臓器移植提供がすまないなかで、家族の皆様をはじめ看護部手術部麻酔科ICU等各部署との連携で成し遂げることができました。心から感謝いたします。



## 『リンとエイジング』

講師：内科学主任教授 稲熊 大城

骨や歯にとって大切な成分であるリンについて詳しくお話しするとともに、リンを適切に摂取する食品の選び方や調理方法の必要性などをお伝えしました。



## 『手指消毒で病気予防』

講師：感染管理認定看護師 石田 佳子

新型コロナ感染予防に限らず、感染対策の基本として手指衛生の重要性についてお話した後、手指消毒・手洗い方法の正しい手順を実演しました。また、来場者には消毒液・手洗い洗剤に見立てた蛍光塗料を手に塗り、適切な消毒・手洗いができているかをブラックライトで確認していただく体験を行いました。



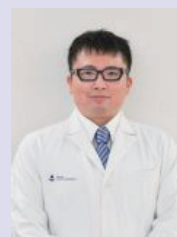
『「リン」についてほとんど気にならなかったが、本日の講演で重要なことに気づいた。』『手指消毒の実演は良かった』と好評でした。

## 次回健康セミナー



### 『膝関節・股関節の痛みでお悩みの方へ』

- 講師：整形外科機能再建学 助教 三宅 惣太
- 開催日：2023年12月9日（土）午前10時～11時
- 場所：ばんたね病院 第一会議室



膝や足の付け根が痛くなってきた。外出や旅行がしづらい。階段の昇り降りがしにくくなった。足が動かしにくくなってきた。お年を召されてからその様なお悩みを持ち、病院で変形性膝関節症や変形性股関節症と言われた方は多いと思います。その時にご説明があったかと思いますが、そもそもこれがどのような病気なのか、今現在の治療は何が出来るのかを改めて一緒におさらいしませんか。当院の人工関節センターで行っている治療を踏まえてお話し致します。

📞 ご予約・お問い合わせ：藤田医科大学 ばんたね病院 TEL：052-323-5792

## 匿名加工情報の作成及び第三者提供について

### ○匿名加工情報の作成について

当院が保有する患者様の個人情報について、当院は、特定の個人を識別すること及び個人情報を復元することができないよう適切な措置を講じたうえで匿名加工情報として作成いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

・診療のために収集された診断画像

### ○匿名加工情報の第三者提供について

当院が作成または保有する匿名加工情報について、当該情報が匿名加工情報であることを明示したうえで、継続的に第三者に提供いたします。

【匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目】

・左記「匿名加工情報の作成について」における「匿名加工情報に含まれる個人に関する情報の項目」と同一の項目

【提供の方法】

・紙媒体により当院内で配布および院外の医療施設へ郵送

・当院Websiteにて掲載

# 藤田医科大学ばんたね病院

FUJITA HEALTH UNIVERSITY BANTANE HOSPITAL

〒454-8509 名古屋市名川区尾頭橋3丁目6番10号

TEL 052-321-8171 FAX 052-322-4734 発行 広報委員会

QRコードで今すぐアクセス

ばんたね

検索

